

かみっこ

令和6年1月26日

子どもたちが大きく伸びる年に

校長 平澤 啓介

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。また、元日には、能登半島を中心に大きな地震がありました。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。何気ない毎日が、かけがえのないものだと思えて感じているところです。

今年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」です。干支は全部で60種類あり、「甲・乙・丙・丁…」という十干（じっかん）と「子・丑・寅…」という十二支の組み合わせでできています。耳慣れない「干支」ですが、甲子園球場の「甲子（きのえね）」や壬申の乱の「壬申（みずのえさる）」などは、干支に由来している名称だそうです。

「甲辰」の「甲」は、大地にしっかりと根を張り、天に向かってまっすぐに成長してゆく樹木を表し、生命や物事の始まり・成長という意味があるそうです。また、「辰」には、龍が象徴するように、勢いよく活気にあふれた様子を表しているそうです。こうしたことから、「甲辰」は、これまで取り組んできたことが成果となって表れる年だと考えられます。



令和5年度、神岡小学校では、「自ら考える」を合い言葉に「子どもが願いをもつこと」と「子どもの挑戦を支えること」を大切にして教育活動を進めてきました。学習や生活、行事では、「僕はこうしたい。」「私はこうなりたい。」という児童自らの願いを大切に、その実現方法を考え、新しい自分への挑戦を推奨してきました。もちろん、初めから上手いかないこともあります。子どもたちの挑戦する気持ちを大切にして、すべての職員で見守り、よさや持ち味を認め、励まし続けています。

こうした取り組みの中で、「自ら考える」姿が少しずつ育ってきたと感じています。児童の主体性や自主性は長い時間をかけてじっくり育まれるものですが、これまでの努力が実を結び、子どもたちが大きく伸びる1年となるよう、引き続き取り組みを進めていきます。

1月16日は、神岡小学校の「こころの日」でした。全校学活では、大切な仲間のことを心に想い、「みんなが仲良くなるように」という願いを受け止め、自分にできることを一生懸命考えました。これからも、子どもたちが心に希望をもち、いのちの大切さを感じながら、さらには、あたりまえの日常の大切さを感じながら、今を精一杯に歩んでほしいと願っています。